

会 議 録				
平成27年度第1回 社会教育委員の会議	日 時	平成27年4月17日（金） 午前9時30分～11時30分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	中村議長、原嶋副議長 古家、樋口、樹、本多、石田、倉持、小山田、清水 各委員		
	その他			
	事務局	石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 小堀生涯学習係長、伊東生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 協議事項				
(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画について				
(2) 平成27年度スポーツ関係団体への補助金交付について				
(3) 社会教育関係団体の登録について				
(4) その他				
2 報告事項				
(1) 平成27年度予算概要について				
(2) 三者懇談会について（平成27年5月21日午後2時から801会議室）				
(3) その他				
<p>（中村議長）</p> <p>おはようございます。</p> <p>皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>それでは、定刻を若干過ぎましたので、会議を進めさせていただきます。</p> <p>27年度に入りまして第1回の「社会教育委員の会議」ということで、まず、事務局から配付資料の御説明をお願いいたします。</p>				

(事務局)

クリップどめになっている配付資料ですが、1枚目が本日の次第になります。

次に、2枚目がホッチキスどめになっていて、原嶋副議長から出していただいたキャッチフレーズ案。裏面が本多委員から提出していただいたキャッチフレーズ案。もう一枚目が中村議長と石田委員から提出していただいたキャッチフレーズ案。

その次が「平成27年度スポーツ関係団体への補助金交付額」。

その後がホッチキスどめになっております「平成27年度～平成29年度社会教育関係団体登録申請書」。これは、この間の協議会でお決めいただきました「小金井革新懇」の申請書になります。これがホッチキスどめで3枚になっています。

また、今年度申請していただいた社会教育関係団体の名簿がホッチキスどめで両面印刷の2枚になっております。

清水委員から先ほど配付していただきたいという要請がありました「《第3次小金井市生涯学習推進計画》計画策定への私見」というものが両面で1枚あります。

あと、「小金井チャレンジデー2015」というカラーのチラシを配付させていただきました。

以上です。過不足等ありましたらお申し出ください。

(中村議長)

よろしいですか。

それでは、きょうから宗像前委員の後任として、古家委員が着任されましたので、決意表明、自己紹介を含めてお言葉をいただけますか。

(古家委員)

おはようございます。

本町小学校の校長をやっております古家といいます。

前任の第二小学校の宗像校長がこの3月で退職しましたものですから、後任ということで務めさせていただきたいと思っております。

全く内容はわかりません。いろいろなことを教えていただきながらやりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(中村議長)

今後ともお世話になります。

1 協議事項

(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画について

(中村議長)

それでは、次第に基づきまして進めさせていただきます。

まずは、協議事項の（１）第３次小金井市生涯学習推進計画についてです。

書面でいただいている方もございますので、お願いしておりましたキャッチフレーズと第３次生涯学習推進計画の柱になる、そのあたりを御発表いただこうと思います。

では、本多委員のほうから順に左回りでキャッチフレーズと柱を御発表いただけますか。

（本多委員）

キャッチフレーズは、なかなか思い浮かばずに、語呂を合わせたような感じになってしまいましたが、読ませていただきます。

①「世代越え 学んで広がる 地域の絆」、②「学習は 未来の架け橋 世代の交流」、③「輝く未来は 学びの継承 繋ぐこころ」。

基本方針案としまして、1番目は「家庭・学校・地域へ自発的に行政（生涯学習）が取り組む」。これはコミュニティスクールの実現ということです。この内容がわかるために私なりに書いてみました。「生き方を学ぶ学校・家庭での夢を実現する学校・地域とともに歩む学校と、生徒たちが元気ではつらつとした学校生活を送り、将来広く社会貢献できる人材となるよう願って、家庭・地域の強いサポート」とさせていただきます。

2番目は「市民と行政の協働によるまちづくりをめざす」。これは、調べたのですが、昭和56年の中央教育審議会答申の中に「生涯学習について」とある中から抜粋しました。「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本として、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習だ」ということを定義するという内容でした。やはり地域の企業の力と知恵が必要になるのではないかとということで選びました。

3番目は「広い世代に合う生活環境の充実」。「市民の生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動へ自主的に参加を促進し、市民と行政との協働によるまちづくりをめざす」という内容にしたいと思います。

以上です。

（中村議長）

本多委員、この件で補足はありますか。

（本多委員）

キャッチフレーズはなかなか考えられず、第2次のキャッチフレーズはよくできているなという感想があります。変えてみたいという皆さんの御意見で考えてみたのですが、先ほど申し上げた言葉の語呂合わせのような形になってしまいました。

（中村議長）

では、その都度やっていくと時間がかかるので、皆さんにずっと発表していただいて、最後にそれぞれの委員の案についての御意見をいただくような形でよろしいです

か。

本多委員、ありがとうございました。

続いて、樋口委員。

(樋口委員)

済みません、なかなか言葉にするまではできなかったのですが、ポイントとしては、連携、協働、創造などを織り込めるような、基本方針の中に入れて、その中でキャッチフレーズをもうちょっと、言葉が誰が聞いてもわかりやすいものにすればいいなということですが、済みません、なかなかまだ言葉としてはつくってきていません。

(中村議長)

キャッチフレーズはそういうことで、基本方針の柱になるようなところは。

(樋口委員)

先ほども言われていたように、コミュニティスクールという部分はP連の一保護者からすると、とても大事だなと思うのと、子どもたちが今、地域とのなじみがなかなかできなかったり、皆さんで育てていく形ができたらというのはすごく思いますので、そういうものも入ったらいいなとは思っております。

(中村議長)

地域で子どもを支えるということですか。

(樋口委員)

家庭と学校と地域が連携していくというようなところが入るといいなと思います。

(中村議長)

以上でよろしいですか。

(樋口委員)

済みません、なかなかお答えできませんで。

(中村議長)

ありがとうございました。

では、続いて、樹委員のほうから。

(樹委員)

私もレポートにするほどのところまでまだまとまり切れていない状況で、今、皆さんのを読ませていただきながら、こういうように言葉にすればいいのかというのが実感ではあるのですが、まず、キャッチフレーズに関してとか、あと、前回、課長のほうから「小金井しあわせプラン」みたいな計画そのものの愛称をつけてはどうかというお話もありましたけれども、そういうものは最終的には一番最後かなと思うのです。中身をみんながもみ合った上で、文章にならなくても、こういう言葉を入れたらいいのではないかというものをお互いに出し合いながら、最後、一つの文章というか、キャッチフレーズ、また愛称にまとめていくのがいいのではないか。

私も1カ月ぐらいずっと考えているのですけれども、いい言葉が出てこないのですが、恐らく皆さん、こうやって出してくださった方もすごく考えて、考えて、考えてこういうように一つにまとめてこられたと思うのですが、例えば「未来」という言葉を入れましょうとか、「世代」という言葉を入れましょうとかというような、その言葉の端々でもいいので、最終段階でみんなが入りたい言葉を出しながら文章にしていくのはどうかなと思って、こうやって本多さんなどが考えてくださったキャッチフレーズを見ても入っている「未来」とか、「世代越え」とか、私もそういう言葉は入ったらいいのではないかなと思っています。

基本方針については、生涯学習で大事なものとして地域、学校、家庭という3つがありますし、世代としては幼児期から学校を卒業して社会人になり、また、仕事をリタイアしてシニア世代になりという、各世代間を網羅できるような基本目標を立てていくことと、あとは、そういう生涯学習をリードしていく人材の育成という部分にしっかりと光を当てていくことを考えてはいるのですが、なかなかうまく言葉にならないかなというのが現状で、中村議長の方針案などを拝見しながら、うんうんと納得しているのが現状でございます。

あとは、一つとても気になっていることがあります、これから細かい施策に入っていくときに今、第2次は市がやっている施策を全部網羅して、生涯学習のものだとしてきているわけですが、それを例えば教育委員会が所管しているものに絞っていくのか、それとも今回みたいな2次のような大きい枠で全部を網羅していくのかを一度検討したような気はするのですが、結論は出さないままきているというところで、基本目標を立てていく上で、もう少しその大枠を絞ったほうがいいのかという、そこが前提で全てが展開していくように思いますので、その大枠をどうするのかも決めていかなければいけないのではないかなと今回は思いました。

以上です。

(中村議長)

ありがとうございました。

続いて、清水委員、お願いします。

(清水委員)

1枚とはいっても、両面にまとめて、ちょっと分量が多いのですが、具体的に何を提案というよりも、まとめていくに当たってこうしたほうがいいのかというあたりを考えて整理してみました。

「まとめ方の基本方針」ということで、第2次推進計画を出発点にして検討するという立ち位置がいいのではないかな。これは継続性という意味で、2次のことは全然無視して議論しましたという、整合性、継続性が欠けてしまうのではないかな。

5年間の施策であることから、テーマは余り絞り込まず、多様性をキープしたほう

がよいのではないか。

実は、私はごみ審議会にも出ていまして、ごみ審も非常に大きな課題ということで、いろいろな話題が出て、総花的になるからもっと絞ったほうがよいという話もあったのですが、ごみ審の場合には10年間の基本計画をつくるという作業で、10年間を見通してこれが絶対だというものなかなか難しいし、いろいろな状況に応じて対応がとれるような、そういう意味では、多面にわたった項目を挙げておいたほうがよいだろうというような議論で、そういう方向でまとまっていますが、生涯学習は5年間なのかもしれないのですが、そういうことも踏まえて、ある程度総花的になってよいのではないかという気がしています。

これは調布市を見ていて、小金井と比較して、調布市のものは親しみやすい言葉、用語を使っているのです。広く一般市民に訴えようというときにはそのほうが受け入れてもらいやすいなという印象を持ちました。ちょっと小金井市の場合はお役人的というか、冷たさを感じます。

同じような意味合いですが、抽象的な表現ではなく、具体的内容を思い描ける記述の仕方をしたほうが読む側はなるほどなと納得しやすいかなと。そういう意味では、調布市の社会教育計画は非常に参考になるかなという気がしました。

その方針に従って第2次学習推進計画をもう一度読み直してみると、非常にいいことをたくさん書いてあるのです。どれももっともで、今でも決して色あせていない内容で書かれているなと思います。

ただし、1章からずっと3章、4章と展開していく中でその場その場でいろいろな言葉が出てきてしまって、それぞれどういうつながりでこうなっているのか余り流れができていないのです。だから、その場その場で思いついたいい言葉を並べてしまっているという感じがして、もう一度、第2次の内容を見直して、関連づけをある程度議論するとまた一つの形が出てくるかなと思うのです。

基本目標、小金井市と調布市の現状を書き並べました。この中に一つ入力ミスがあって、小金井市の理念の中の「智の」とこれは「共に」です。「共に教え合い、学び合い」という、これは頭に出てくるキャッチフレーズです。調布市と比べて内容的には遜色はないのですが、さっき言ったように表現的には調布市のほうがこれをぱっと見ただけでも親しみやすいですね。

というようなことで、最後にまとめていますが、1章から2章にはいろいろな表現で施策の基本が述べられていて、提示されている内容はもっともなことで決して悪くないが、全体で見るとそれぞれの関連が示されず、そのことから美辞麗句が並んでいるような印象を受ける。全体を通しての一貫性と前後の方針提示の関連性を説明したほうが説得力が出るのではないか。全体的にはそういうことで、どのような形で推進計画をまとめたらいいのかある程度気がついたことを並べてみました。

次のページは、思いついたことを勝手に書いているのですが、生涯学習計画という
と、やはり幼児から老齢期までということで見ると、ライフステージに応じた形であ
る程度課題が出てくるかなと。そういうようにして課題を整理していくと、網羅的に
課題を提示できるのではないかという気がしています。

ライフステージは、第2次計画で出ている区分に準じて幼児期から高齢期まで並べ
ましたが、その各段階で私が感じる施策というよりは課題的なものを書き並べてみま
した。ここはいろいろな議論があると思うので、私が気がついたものはこのようなも
のですということで見てください。

社会教育の要点は、学ぶこと以上に体験する場を提供することにあるのではないかと
私は感じているので、そういうものを社会教育の中でどう実現していくか、提供し
ていくかということところあたりを提案できると成果が期待できる計画になるのでは
ないか。では、具体的にどうなのだというのは私もまだ答えはありません。

あと、小金井市が直接関与しない活動でも重要な生涯学習活動を取り上げる。民間
団体が活発に活動していることは恥ずべきことではなく、誇るべきことである。例え
ば雑学大学、小金井薪能、阿波踊り等々です。もちろんもっといろいろなことがある
ので、そういうものを掘り起こして、中で紹介して、それが社会教育のなりとどう関
連しているかということ例示していくのも、先ほど言ったような説得力を出すとい
う意味では、いいやり方かなと思っています。

奉仕団体と言われるロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソロプチミスト、青年
会議所というところでもいろいろな活動をやっていますので、そういう連携活動を紹
介したり、あるいは推進するための仕組みを考えることも一つかなと。各団体がみず
からある程度財源を持っていますから、そういう意味では、強い味方ではないか。う
まく巻き込んだほうがいいのではないかと思います。

第2次小金井市生涯学習推進計画の実績評価をどのように示すか。これも2次から
3次へ移行するとき2次はどうだったという、2次の成果がどう出ているよという
ことをある程度入れていくといいかなとも思うのですが、どうやって評価していくの
か、何を実績として取り上げるのだというのは結構難しい課題かなと思います。

生涯学習推進計画の大部分を示す、皆さんも言っている各項目の3分の2以上、4
分の3ぐらいを占めている部分は表形式にまとめたほうがいいのではないかと。調布市
と比べると厚さは全然違います。その厚さの大部分を例のものが占めているという、
この構成は改めたほうがいいかなと。もう一つは、小金井市のものは立派ですね。調
布市に比べて非常に立派な製本をしています。これだけ立派にすると単価も高くなる
のだらうなど。この程度で、むしろ部数を多くして、広く配付する。同じ予算内で払
えるのであれば、部数をふやす工夫をして、それをいろいろなところに配っていくほ
うがいいのではないかという気がしました。

以上です。

(中村議長)

ありがとうございました。

清水委員のほうからは、特にライフステージに向けて、時期によって課題と施策を考えていくという示唆をいただきました。ありがとうございました。

倉持委員、お願いします。

(倉持委員)

私は小金井市民ではないので、私が言うと共感的な意見しか出ませんから、どうぞ皆さんの御意見を言っていた後にそれに少しコメントする形にさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(中村議長)

わかりました。では、後でまたコメントをいただくということで。

では、続いて、小山田委員。

(小山田委員)

私もまとまった書面では提出できていないのですが、前回の小委員会でのお話を伺いつつ思っているところでは、キャッチフレーズ的には「学び合い、つなぎ合い、わかち合う生涯学習」とか、そういう感じがいいのかなと思いました。

家庭と学校と地域、社会の連携の中で、基本方針としては、そういった中で子供を地域で育てていくということは、樋口委員もおっしゃっていましたが、やはりそれは課題なのかなと思います。

あと、多彩な学習の機会、場所を創造していくということと、あらゆる世代でいろいろな学習の機会があるとよいかと思いますので、そういうことと、あとは、この間の委員会のお話でも、ネットワークづくりが結構言われていたと思ひまして、人材バンクもしかりなののですが、それぞれ活動されているのですが、お互いまだ情報が行き渡っていないということが課題としてあったかなと思いますので、そういった生涯学習を通じたネットワークづくりというものも基本目標かなと思いました。

あとは、この中で小金井らしさが言葉の中とかであらわれるようにできればいいのかなと思ひまして、それは皆さんからお言葉を伺いつつ、小金井らしい感じのフレーズがあればいいかなと思ひています。

とりあえず、以上です。

(中村議長)

ありがとうございました。

続いて、石田委員。

(石田委員)

私は、自分の現在を思うと、小金井市という市というのは、結局、幼児から老いま

で全部を網羅しなければいけないので『子どもたちの未来』『私の現在』『やがてくる
老い』 みんな あたたく 繋ぐ 小金井」または「小金井市」と入れるか、その
どちらかで、全部をぱっと見たときにわかるキャッチフレーズと思って日々考えてい
たのですが、これ以上浮かばなかったので1つです。

2月に第2次の評価をしたときに、これが重くて、立派で、1,000円なのでみ
んなに配り切れないということが一番。

1,200円ですか。

(石田委員)

済みません、1,000円だと思っていました。

これだと配り切れない。七十何ページかあるのですが、調布市の展示会でもらった
ものを見ると、これが39ページかなのです。厚さからすると、結構差があるのです。
ということで、私は2月のときに、例えば生涯学習とか、図書館とか、そういうところ
でやっている行事の項目を全部分けてみたのです。そうすると、生涯学習なら生涯
学習だけで、やっている行事に対していろいろな推進、これの計画とか実績などをま
とめていくと、各課がこのぐらい。一番多い課でもこのぐらいでおさまるのではない
かと思うのです。ですから、各課でそういうものをまとめて、必要なときには全部合
体したものを市として持っていればよいと思ったのです。例えば図書館でやっている
こと、学務課でやっていること、スポーツ振興課でやっていること、全部一冊にやら
ないと、もし見たい人はこの中の一部分の3ページくらいしか必要ではない人もい
るわけです。ですから、3ページなら3ページだけ取得することができるようにしてい
けば、もうちょっと手に入りやすく、配りやすく、単価も安く。

私はキャッチフレーズは全体を網羅する意味でこれしか考えられませんでした。清
水委員などに恐縮しているのですが、それが感じたことです。

(中村議長)

基本方針は、今、おっしゃったところですか。

(石田委員)

基本方針はもっと薄く、簡単に、明瞭にと。いいことをやっているのに伝わらな
ければ何にもならないと思うのです。ですから、もっと市民に訴えられやすく、読んだ
人がわかりやすく、そして、そのことを評価しやすくということ。伝えることが一番
大事ではないかと思えます。

(中村議長)

ありがとうございます。

それでは、原嶋副議長、お願いします。

(原嶋副議長)

「学びあい、つなぎあい・活かしあう ひと・まち・小金井」。やはり委員会の話し合

いを大事にしていきたいなど。今まで言葉とか、親しみやすい、そういうものを積み重ねてきてこういうキャッチフレーズも生まれるのではないかと考えています。なので、できるだけ漢字あるいは専門用語を少なくしたほうがいいのではないかと考えています。

幾つかの市町村のものを見ました。武蔵野市に近い。なぜかという、小金井市というのは、村というよりはかなり都市化したものだと、私も六十何年生きていますけれども、そのような感じがします。隣の人が何をやっているかわからないような感じもします。よって、武蔵野市かわからないのですけれども、そういった意味では、この文章の中で「つなぎあう」というものに私はこだわりたい。やはり連携プレーであるということです。

あと、先ほど来からお話があったように、せっかく皆さんいい活動をされているのだけれども、その広報活動が足りなかったり、横の連絡が足りなかったり、いわゆるネットワークづくり。そのようなものを意識しながら作ってみました。基本的には、親しみやすさということで、できるだけ平仮名を多くしているということです。

次に柱ですけれども、これは清水委員がわざわざやってくださったことと同じです。子どもを地域で育て、調布市と同じようなレベルでやったほうがいいのではないかと考えています。漢字をできるだけ少なくする。多様な人々の社会参画。背伸びしないような言葉が個人的にはいいなと考えています。

なお、コピーについては樹委員と全く同じであります。きょうここで無理に決めなくても、こういう話し合いの中から、いろいろこの言葉はいいなとかと出てきたときに、皆さんで包んでくれるような表現が集合体としてできたらいいのかなと考えています。

以上です。

(中村議長)

ありがとうございました。

それでは、私のこの書面は何度も皆様に行っているかと思えますけれども、私は皆さんと違って漢字が多いのですが、「生涯学習（社会教育）が結ぶ家庭・学校・地域の絆（輪）」あるいは2つ目として「生涯学習都市・小金井の実現に向けて」の2つをキャッチフレーズとして考えました。

基本方針としては羅列しておりますけれども、「家庭・学校・地域の教育力アップに生涯学習（社会教育）が寄与」「あらゆる世代のよりどころとなる居場所づくりを生涯学習（社会教育）が強力で支援」「家庭教育・学校教育・社会教育の連携強化（コミュニティスクールの実現など）」のあたりを私はぜひ強調したいなというところがあります。それから「生涯学習支援センター構想の実現」。これについては、もう皆さん御案内のとおり、前期の社会教育委員の会議より申し送り事項ということで、こうい

った生涯学習施策においては継続性が求められるということで、前期から討論されてきたことを盛り込む必要があるのではないかとということで、「生涯学習支援センター構想の実現」。

あと、これまで小金井の生涯学習、社会教育の問題点としては、企業力を余り活用してこなかったというところがあるかと思います。特に東京都が毎月出している社会教育の冊子。皆さんもごらんになっていると思います。そこに結構いろいろな企業が社会教育に寄与している事例がたくさん見受けられる。今後は、こういった方向性として、企業力を生涯学習に活用していくことが求められるのではないかとということで、第2次においてはこのあたりの企業力の活用というのは全く触れられていなかったのですけれども、その辺を活用していく方向性を打ち出す必要があるのではないかと。ここも力点を置いていきたいなという考え方です。

私のキャッチフレーズと基本方針については以上です。

では、皆さんの御意見を一通り承りまして、倉持委員から総括コメントをお願いします。

(倉持委員)

偉そうに済みません。中身がないものですから、聞いて何かを言うことしかできないのですけれども、皆さんのを伺っていて、最初に確認したいのですけれども、何度も済みませんが、キャッチフレーズというのは、今まで計画の基本理念といったような皆さんにこの計画をわかりやすく一言で伝えるようなとか、象徴するものだというので、基本方針というものは、複数立つようなもので、計画の柱となるものだという形のイメージでよろしいのですね。

(中村議長)

おっしゃるとおりです。

(倉持委員)

ありがとうございます。

今、皆さんにお話ししていただいたものを言葉として幾つか拾ってみると、世代だとか、地域、未来、交流、継承、連携、協働、創造、多くの皆さんがおっしゃったのは学校・家庭・地域ということ。それから、学び合うとか、わかち合う、つなぎ合うとか、何々し合うという、つまり双方向的なイメージだと思うのですが、何々し合うというところ。子どものことで、子どもを地域で育てようとか、育ち合うとか、そういうようなところだと思います。体験の場をつくるとか、生かす、つなぐ、つながり合う、ネットワークということですね。まちづくりとか、教育力、社会参加、多様な人々のというようなところで、キーワードとしてはその辺が挙がってきたかなと思うのです。

ただ、こういうことを考える前提として、基本的には、わかりやすい、親しみやす

い、具体的にというところで、多くの皆さんがおっしゃっていたのは、余り抽象的でないような、しかし、響くようなという、そういうことをおっしゃっていたように思います。

少し内容を議論しつつ、愛称やキャッチフレーズ、方針を急いでつくらないで、内容の議論はきっと重ねるのではないかと思うのですけれども、結局、こうやって話すことがどの部分にこの計画が焦点を当てていくかという議論になっていくと思うので、それがきっと言葉としてあらわれてくることもあるので、少しその辺を行ったり来たりしながら話したらいいのではないかという話が出ていました。

例えば民間団体だったり、ボランティア団体だったり、企業だったりというものに行政が直接やっている事業ではない、むしろ自発的だったり、民間活動やコミュニティ活動として行われていることを位置づけたほうがいいのではないかという御関心をお持ちなのかなと皆さんのお話を伺っていて思いました。ここは少し今後議論していくところかなと思うのですけれども、生涯学習というのは皆さんも御存じのように、行政が提供する機会だけが生涯学習ではなくて、いろいろなチャンスとして行われているわけですが、計画の中に行政が直接、責任を持たないという言い方は変ですけれども、それぞれで、しかし、地域で豊かに展開されている自発的な活動ということをどう位置づけて、皆さんのお話だと、それを少し協働だったり、連携だったり、ネットワークだったりとつなぐことが大事なのではないかというキーワードが出ていて、多分それが生涯学習支援センターの構想で議論してきたことともリンクしてくるような話だと思うので、つなぐとか、ネットワーク、連携、協働とかというあたりは意見交換をしながら、柱というか、筋の一つに持っていった方がいいのではないかと皆さんの御関心を聞いていて思ったところです。多分、小金井市には豊かな素地があるというか、既にいろいろ展開されていて、歴史もあると思うので、これを入れることによって小金井らしさというところも出てくるのではないかと感じました。

基本方針のことですけれども、多くの皆さんがおっしゃっているのは、学校や地域、家庭の連携だったり、協働だったり、そこをどうつなげていくかということ。ライフステージだったり、世代だったりというところを少し網羅する形の柱立ても必要なのではないかというようなこと。それから、それを支える人だったり、環境だったりというところをどうつくるかが必要なのではないかということ。生涯学習を自己実現のためだけの学びというよりは、まちづくりとか、地域ということと絡めて話すというか、学んだこと。他市などでよく出てくるのですけれども、学んだ成果を地域に生かすみたいな、国などが言っていることだと思うのですが、それはやや単純化されていると思うのですけれども、生涯学習ということと、まちづくりとか、地域ということとの接点みたいなものの関心をお持ちなのかなと、柱の一つとして立つかなと思いました。あとは、生涯学習支援センターとか、居場所づくりというようなお話もあった

かと思えます。

小金井らしさを出すというお話が何人かの委員さんからもお話があったと思うのですが、私もここは皆さんの御経験や御活動の中から御意見を出していただくといいと思うのですが、例えば府中市などだと、学び直しということをたしかキーワードに表に出していたと思うのですが、あれはターゲットを大人というか、団塊世代あたりなどにも少し焦点を当てているような気がして、その人たちが学び直すことによって地域の人材になっていくような、もちろん計画自体は子供期から全部入っているのですが、ターゲットとして表に出していく形になっているのではないかと。

府中市は人口もすごく多いので、そういうところなどを少し、埋もれているとか、退職した後ぶらついている人をどんどん活用しようみたいな、もうちょっときれいな言葉で言うと、意図があるのではないかとと思うのです。

調布市などは、企画を立てているときにすごく思ったのですが、例えば人権に関する事とか、障がいをお持ちの親御さんたちの活動が非常に盛んで、計画にそこを入れていくことをかなり熱心におっしゃっていたのです。なので、すごく社会参加ということ、つまり、学ぶ機会を提供してもらっただけではなくて、それで社会参加につなげていく。それを外国人とか、障がいを持つ子どもとか、その親たちも参加していくのだということ、それこそ委員さんの中にそういう方がいたり、そういう活動が根強くあったりすることによってそういうカラーを入れていったところがあったようだったのです。

あと、武蔵野市だと、やはり都市型文化ということにすごくアイデンティティーを持っているので、まちに近いというか、おしゃれなまちがたくさんあるというところで、都市型。大学もたくさんありますから、そういうところでもすごくおっしゃっている。公民館などは逆にないので、そういうように言っている。

例えば小金井らしさで、私が住んでいないのに思う小金井らしさと、外から見て思う小金井らしさで幾つか挙げるとすると、例えば公民館などで企画実行委員会があったり、さっきおっしゃっていたみたいにいろいろな地域の活動とか、組織、ボランティア活動、長年活動をされていて、そういう地域の力とか、市民がそうやって自主運営していく力というのは非常に一つ特徴なのではないかと感じています。あと、郷土の文化とか、郷土の歴史みたいなことに関する活動や思いみたいなものも結構強いのかなと思っていて、具体例は私はよくわからないのですが、桜並木をどうしようとか、冊子をつくって、冊子のフェアのときに売りに行ったり、ああいうものは、あと、かるたをいただいたこともありますが、ああいうものは特徴的だと思う。すごく一生懸命やっていると思うので、例えばそういうものを少し出していく。郷土への愛着心をはぐくむみたいなこととか、そういう人を育てていくみたいなことも特徴の一つだったりするのかなみたいな、少しそういう意見も出しながらカラーを出して

いく。前面に出さなくても、そういうものを少し入れ込んでいくというのものもあるかなと思いました。

済みません、長々としゃべりましたが、以上です。

(中村議長)

なかなか示唆に富むお話をありがとうございました。

私も倉持委員にまさに同感なのですけれども、小金井らしさというものを第3次の生涯学習推進計画に盛り込んでいくことが大事ではないか。特に、おっしゃったように公民館の企画実行委員の制度であったり、郷土の文化への思い入れであったり、その辺は他の市町村と違うところだと私も思いますし、そこを具体的に落とし込んでいく必要があるのではないかな。

(倉持委員)

子どもの学力が高いというのも、皆さんすごく誇りを持っていらっしゃるんですね。高いのよといつも聞くので。それで、学校支援地域本部なども皆さん熱心で、PTAの方とかも熱心で、そういうものも特徴。

済みません、途中で口を挟んでしまって。

(中村議長)

その辺もあろうかと思いますが、どうでしょうか。生涯学習の分野における小金井らしさというものを皆さんで考えて討議するのもよろしいのではないかな。その辺を前面に打ち出していくと、これは小金井らしくていいなというものができ上がるのではないかなと思います。

清水委員のほうからも文書で御提言がありました例えば奉仕団体、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソロプチミスト、青年会議所との連携活動紹介推進。この辺もうまく文書の形で落とし込んでいければ非常にいいのではないかな。ここにも書いていただいています、小金井市が直接関与しない活動でも重要な生涯学習活動を取り上げる。民間団体が活発に活動していることは、恥ずべきことではなく誇るべきこと。例として、雑学大学などの学習活動。雑学大学は私は一度、受講したことがあるのですけれども、非常に中身の濃いものでありましたし、こういったことを活発化していくことをうたっていくことも大事でしょうね。清水委員が理事長をやっておられる小金井薪能などの文化活動、阿波踊りなどの地域活動。忘れてならないのは、青少年のための科学の祭典ですね。これは他市にないすばらしい社会教育活動ではないかなと思います。そういったところにスポットを当てて作成する必要があるのではないかなと思います。

(清水委員)

科学の祭典などはこちらに出てきますね。ところが、薪能だとか、雑学大学は出てこないのです。出せというと、余りしっかり出ないからと。

(中村議長)

それは第3次では出したほうがいいのではないかと私は個人的に。まさに生涯学習活動で、地元の有志の方が支えてきた非常に素晴らしいことだと思います。

(清水委員)

ちょっと私的経験でいいですか。

小金井らしさということで、私はほとんど小金井しかいないので、ほかと比較できないから、小金井らしさというのは何だというのは実際は余りよくわからないのです。ただ、一つ言えるのは、いろいろな団体に所属して、私は保護司であり、商工会に加入し、ライオンズクラブにも加入している。そうすると、ほかの地域の団体とよくいろいろ一緒になって話したり、活動を見たりするのです。小金井はどの団体をとっても、ほかの地域の団体に比べてとても仲がいいのです。非常に和気あいあいとやって活発です。保護司会でも、商工会でも、ライオンズでも、本当にそういう印象を持ち合わせている。何でそれが出ているかよくわからないのですけれどもね。とにかく構成団体の仲がよくて、非常に和気あいあいとやっている雰囲気があるなというのは感じています。そういうものが小金井らしさとどうつながるのかがよくわからないのですけれどもね。

以上です。

(中村議長)

ほかに各委員から総括的なコメントをいただけませんか。皆さんの意見が出尽くしたところで、今、お考えのこと、全体的なところで何か御意見はいかがでしょう。

(清水委員)

古家先生からも。

(古家委員)

私は、先ほども言いましたように、全く白紙の状態でここに来ました。前委員の宗像先生から結構たくさんファイル2冊分ぐらいの資料はいただいていたのですが、新年度のスタートに当たって全く余裕がなくて、全く目を通さずに来て、ここは一体何をするとところなのだろうと。済みません、失礼な話で。そして、先ほどお話を伺いながら、この第2次の推進計画をばっと目を通しながら、いろいろ聞きながら、自分の頭の中で整理をしていたので、ある意味では新鮮な感想かもしれませんが、生意気な言い方に聞こえるかもしれないのですけれども、済みません。

先ほどいろいろなことを、これからの基本方針とか、キャッチフレーズにというお話があったので、キャッチフレーズは、私は全くイメージが湧かないのですが、先ほどからあるように、できるだけ易しい表現で、本来だったらキャッチフレーズはできるだけ皆さんがばっと思い浮かべるように余り長くないほうがいいかなと。シンプルな形のほうがいいかなと思います。

内容の基本方針のことについて幾つか感想として述べさせていただきます。順不同で済みません。

1つは、小金井らしさというのは、私はまだここに勤めて1年で、八王子市民ですのでよくわからないのですけれども、小金井の特徴として、今、第2次推進計画をわっと目に見た上で、ひょっとしたらこれは生涯学習とか、いろいろなこととかかわりがあるかもしれないなという小金井市の特徴として考えられるのは、私は、東京学芸大学の存在は非常に大きいだろうなと思います。学校としても東京学芸大学というのは教員養成の大学であるのも去ることながら、地域にまるっきり大学がそのまますっぽりある。しかも、歴史が古くて、なおかつ非常にすばらしい大学なので、東京学芸大学の存在は抜きにしては語れないかなと思うので、どういう形ででもいいから、人材の活用とか、連携とか、いろいろな形で小金井の文化とか、生涯学習のかかわる部分があると思うので、何らかの形で記載するというか、探っていく必要はあるかなと思いました。

企業の活用ということで、確かに企業の活用というのは余りここには述べられていないかなと思うのですけれども、私は前任校が小平だったのですが、小平で企業に関係する、あそこはブリヂストンがありますから、ブリヂストンは当然なのですけれども、それ以外に生涯学習にかかわる部分としては、F C東京がよくかかわっています。F C東京そのものは府中の味スタを中心拠点としてやっていますが、F C東京は子供の育成のためにスポーツ選手を派遣したり、そういう人たちを巻き込んでみたいの部分と同時に、F C東京が目指しているのは、今の企業はどこもそうだと思うのですが、可能な限り企業がある地域に貢献するという方針を物すごく強く打ち出しているところが多いと思うのです。ましてや名前の通った一流の企業であればあるほどそうだと思うのです。私はF C東京の会社そのものがどこにあるかはよく知らないのですけれども、この近辺ではよく聞くので、できれば何らかの形でかかわりを持ったり、活用していく、連携をとっていくことは必要かなと思っています。同時に、小金井にある大きな企業という部分では、ひょっとしたら、例えばイトーヨーカドーなどもそうかもしれないですし、武蔵小金井とか、東小金井近辺を中心とした地域貢献の意識を持っているような企業についてはちょっと探ってみて、連携を考えていく必要はあるかもしれないなと思いました。

生涯学習支援センター構想というものが、ちょっと私には具体的なイメージがわからないのですけれども、教育に関連する部分でいくと、実は、東小金井駅の北口に発達支援センターきらりというのがあるのですが、そこは特別支援教育に関連する施設で、施設そのものも、人材的にも、やっている内容も多分、多摩地域ではピカ一の、小金井市としても相当の予算をかけて、1億円以上のお金をかけてやっていると思うのですけれども、支援を必要とする発達障がい等を持っているようなお子さんをお持ち

ちのお母さん方に対するケアというものにはすごい施設なのです。立川とか、どこかに幾つかあるとは聞いていますが、私の知る限りでは、多摩地域では多分、最高の施設だと思うのです。ただ、あれだけの箱物、また人を運営するのは、先ほども言いましたが、物すごいお金がかかっているという部分を考えると、生涯学習支援センターというものが箱物も含めたイメージなのか、生涯学習課の中のどこかに位置づけるのか、もしくはどこかの既存の建物の中にそういう一角を置くのかによって予算も含めて全然違うと思うのです。そこで何らかの会議ができたり、活動ができたりするような箱物を考えると、とてもではないけれども、今の小金井の予算を考えると厳しいと思うし、生涯学習課と連携というか、ほぼ生涯学習課の中に位置づけられる部分だと思うので、生涯学習支援センター構想については、その規模とか内容について早目にイメージを具体的にしていきながら位置づける必要はあるかなということを感じました。

中村議長の案の上のところ、コミュニティスクールの実現とあるのですけれども、実際のところ、今、小金井市の小中学校14校で、私の知る限りでは、コミュニティスクール扱いになっている学校は1校もないのかなとは思っているのです。

私が一昨年までいました小平はコミュニティスクールが4校か5校ありました。このコミュニティスクールの大きな特徴というのは、1つは、学校運営評議員の方々のいろいろなお知恵を拝借しながら学校運営に当たっていくというのがあるのですけれども、これはどちらかというネゴ的な部分が多いのですが、かなり大きかったのは、小平第六小学校に典型的にあらわされているように、学校施設をいろいろな地域の方とか、そういった方々が積極的に夜とか休日に使うというような方向がかなり強く位置づけられている部分なのです。そうなったときには、今の小金井の学校施設を地域に開放するような方向がどれぐらいまで可能なのかとか、今の段階ではまだなかなか難しいなと思うのですが、これは今すぐというよりも、先進的な取り組みを取材しながら実現可能なあたりを見詰めていく必要があるかなと思っております。

その一つの典型的な例というか、参考になるものが小平第六小学校というところで、西武国分寺線小川駅の近くにあるところなのですけれども、ここは普通の小学校とは全く違うところなのです。隣にブリヂストンがありまして、多分、学校の建設に関してもブリヂストンが相当かかわっていると思うのですが、学校の施設そのもののつくりが、これは本当に市立の学校なのというぐらいに余りにもびっくりするような施設なのです。小学校の割に体育館がすごく大きくて、小金井第一小学校の体育館と同じぐらいの規模で、ひょっとしたら体育館に冷暖房が入っているのかな。ちょっとわからないのですけれどもね。それから、学校の敷地内に市民の方でも利用できる冷暖房完備の大きな部屋が1、2カ所あったり、子どもの活動以外で四六時中、市民の活動として貸出をしているので、副校長は大変だと思うのですけれども、すごい勢いで市民

の方が入ってこられていて、やっぺらっしやいます。当時に、学校教育に関する支援の方々も半端な数ではなくて、完全に地域密着型の学校なのです。一つの例ですが。あそこまでいくには施設設備をそのままつくり変えなければいけないと思うので、小金井ならば、比較的、小金井第一小学校がそれに近いようなつくりを多分やっていると思うのですが、これは少し他市の例を、特に小平の例は参考にしながら何か具体策を考えていく必要はあるかなと思いました。

先ほど清水委員のお話の中にあつた小金井市としてライフステージに応じて重要課題という形で私見で述べられていたのですが、これにかかわる部分で私が幾つか自分の直感的にというか、感想的に思ったものが、一つは、生涯学習ということを考えてときに大事なものは、青少年の中で次世代の地域とか、社会を支えていくような若い世代の育成は非常に大事なことかなと思ったのです。例えば夏に阿波踊りなどをやっているのですが、どちらかというと、指導者とか、責任者の方々はかなり高齢化してきている傾向があると思います。でも、子どもたちは結構積極的に参加しているのです。見ていて非常に特徴的に思ったのは、子どもの時代に参加しながら、中学校、高校を卒業してもずっとかかわっている若い世代の人が何人か残っていて、そういう人たちが引っ張っていつている部分はすごいかなと思ったのです。例えば緑色のスカーフをつけて活動しているボーイスカウトみたいなものも多分、子どものときに経験した子供の中から、大人になって、若い世代で、高校生、大学生ぐらいになっても引き続き面倒を見ているような子どもたちとか、大人の人、そういう人たちが順調に育っている組織というのはやはり発展していつている。指導者層が高齢化していつて、若い人が育っていないところは、どうしても先にしぼんでいつてしまう部分があると思うので、青年になる若い世代、次世代を引っ張っていつけるような人材の育成はどこの組織においても非常に重要な課題かなという気はしています。

もう一つ、小金井で特徴的だし、必要な部分としては、障がい者の皆さん方の活動を支えるような視点は大事かなと思います。実は、私も昨年度、26年度に初めて経験したのですが、本町小学校の学区内に大人の方々の障がい者施設が3つあるのです。もともと出てきたものは、大規模災害などのときに本当にいろいろなものがストップしてきたときに、当然いろいろな方々がお困りになる。例えば御高齢のひとり暮らしの方などはすごくお困りになるだろうと思うのですが、実は、非常に困って、なおかつ自分でどうすることもできないような人たちが障がい者の皆さん方なのだということで、学区内に障がい者施設が3つか4つあつた人たちがいざというときにはここに避難してくればいいのだよということで、本町小学校に避難訓練をされたことがあつたのです。そのときに、その施設の方々とお会いしたのですが、そういう皆さん方が守られるだけではなくて、自分たちも存在価値はあるのだというようなことで活動なさっていると思うのです。ときどきいろいろな公的なところで障害者の

皆さん方がつくられたものを販売されているところとか、そういうケースもあると思うのです。そういう部分の支援とか、サポートというか、ネットワークみたいな、そういう方々のことについてもどこかで触れる必要があるかなと。そして、もう一つは高齢化社会という部分なのだろうと思うのです。そういったものも含めながら、今回の第3次計画を策定していく必要があるかなと思いました。

最後に、先ほどどなたかがおっしゃっていた第2次計画は非常に立派で、かなりお金がかかっていますねというのがあって、私も正直にすごいなと思います。学校というところは大体、東京都とか小金井市からいっぱいこういう冊子が来るのです。校長室の棚を見るとそういう冊子がいっぱい並んでいる。並んでいるのですけれども、余り見たことがない。必要に迫られたときに、こういうものがあるのだと今、私も見て、初めて知ったのです。そういうことを考えたときには、こういうものをつくるときに、私みたいな素人というか、初めて目にする人でもどのようなことをやっているのかなみたいなことがぱっとわかるような比較的シンプルで、なおかつ一覧表になっているものとか、小金井では実際にこういう活動をしていますよとか、どなたからか一覧表にとありましたけれどもね。きょうお配りになっているこういう団体名があるのだみたいなものがあると非常にわかりやすいかなということは感じました。小金井は財政的にも厳しい市だと伺っていますので、もう少し安価なもので、例えば全部カラーにする必要は多分ないだろう。私も、本町小学校がことし50周年を迎えるので、50周年の記念誌をつくるのです。そういうことを考えたときに、これをつくと多分これぐらいの金額がかかっているだろうなというのは何となく想像がつくので、オールカラーにするよりも、白黒のページをふやしたり、紙の質を落として、ちょっとページ数を減らしたりすることでもっと違う形にお金をかけるならばそれはいいことではないかなと思えました。

雑駁ですが、済みません、生意気なことを感想で言いました。

(中村議長)

今後、古家委員におかれましては、特に生涯学習と学校教育とのかかわりについてまた御提言をいただければと思います。

実は、小山田委員が東京学芸大のこども未来研究所で携わっておられる子どもの体験学習についていろいろ、事務局の代行をされているということで、その辺もちょっと御紹介をいただいて、若干関連してくることがあろうかと思えます。

(小山田委員)

資料も何も持ち合わせておらず、済みません。

今、文科省のほうからの事業ということで、3年計画で、本年度が3年目になるのですが、青少年の体験活動奨励制度というものの試行実施をしております。14歳から24歳までの若者たちがエントリーできまして、それぞれ4つの体験ジャンルを

こなすのですけれども、4つのジャンルというものが、1つが自然体験活動、1つは運動、あとは文化教養とボランティアという4つのジャンルがあります。

それぞれ自然体験活動は1泊2日とか、そういう感じなのですが、あとのものに関しては1週間に1時間程度を最低3カ月は続け、1つの種目だけ6カ月を続けるということで、一応、アドバイザーという方がそれぞれの子供たちにつきまして、そのアドバイザーという方は地域の方だったり、学校の先生だったりという場合もあるのですけれども、その活動を終了すると、文科省のほうで3月に表彰式で表彰されるのです。まだ試行的な段階でやっているのですが、小金井のほうも、もちろん学芸大学の学生も何人か参加したり、地域の方々のお子さんたちも昨年は何人か参加してくれたのです。

今年度もこれから募集してという段階に来ておりまして、これからまた正式に募集要項などをつくりまして募集するのですけれども、そういったことがありまして、そのボランティア活動とか、そういったところに実際に地域でいろいろな活動をされているところに子供たちにボランティアで行ってもらって、そこで体験活動を、ただボランティアをするだけではなくて、それをつなげていくと、それが目的ということではないのですけれども、一応、そういった最終的に表彰、修了証がもらえるということで、それを広めていくことを今後やるということで、今年度も小金井のほうでどこかの公民館とかを拠点にして試行的にやれるといいのかなと考えています。人数的には、昨年度は修了した人たちが140名ぐらい。初年度は70名ぐらいだったので、今年度は300名ぐらいを目指しているというような感じです。

もう一つ、インターナショナル・アワードというものがありまして、今回の体験活動をやりますと、英国エディンバラ公が50年ぐらい前から、イギリスで発祥しましたインターナショナル・アワードと同じような体験活動に対して修了証が発行されるというものなのですけれども、それも同じ要件でつくっていますので、そちらにも申請できるということで、そのインターナショナル・アワードというのは、世界で百数十国が加盟されていまして、日本ではまだまだ全然知られていないのですが、アジア圏ですと、韓国とか、シンガポール、最近では中国でも1,000人単位、シンガポールだと何万人単位というぐらい、行政とタイアップして参加してもらおうようなことをやっているということで、そちらにも申請できるということで今、やっているのです。そのようなことで、そういった活動があります。

ちょっと余談ですが、コミュニティスクールのお話とかをいろいろ伺っていまして、今年度も学芸大とNPOのほうで三市連携講座などをまた行うと思うのですけれども、これまでもそういった中でいろいろな小学校のコミュニティスクールですとか、学校支援地域本部に見学に行ったりみたいなことが1こまぐらいありまして、小平のほうも、六小は小平ではないのですが、四小とかには行かせていただいたり、幾つか

小平も回っていたりしたので、今年度その講座を入れられるかあれなのですが、もしそういうものがありましたら参加していただくと、行くといろいろ説明して下さってということがあるので、先進的な取り組み的なものと、私も今まで行っていた部分の資料があるので、整理して、今度お持ちできたらと思うのですが、小平のほうは先進的に取り組んでいらっしゃって、本当にすばらしいなという取り組みがたくさんあるかと思うので、そういうものもまた御紹介できたらと思います。

(中村議長)

今、小山田委員のほうからお話がありましたけれども、第3次の計画にその辺の子どもの体験学習云々かんぬんというものを盛り込めたらと思うのです。何かいい形で盛り込めたら、それは生涯学習、社会教育にも関連するところだと思うのです。その辺のお考えをまとめていただけたら。いきなりで恐縮ですが。

(小山田委員)

わかりました。もうすぐ今年の資料ができると思うので、今度お持ちします。

(中村議長)

その辺を盛り込んでいくとまたいいものができるような気がするのです。

(清水委員)

聞き漏らしたかもしれないのですけれども、どういう方がどういうふうにして参加するのですか。募集をかけるのですか。

(小山田委員)

募集をかけます。それは一般公募という形でホームページとか、昨年度とかは学校などを通じては募集しなかったもので、情報が学校単位には行っていないのですけれども、イメージとしては、社会教育の場での体験活動ということがある。学校教育の中ではない部分の体験でなくてはいけないといったこともありまして、社会教育ということではいろいろな活動をされていらっしゃる方々に通じてという形でしか募集していないのと、あと、学生は大学単位で募集をかけているということです。

(清水委員)

例えば中学、高校生などは本人が希望してくるのか、それとも親を経由してくるのですか。

(小山田委員)

昨年度、高校生で入ってくださっていた方たちは、一つは、学校の中でボランティア部みたいなどころがある高校がありまして、その方たちは先生がアドバイザーになって、ボランティア部として20人ぐらいで参加して下さったりということもあります。あとは、ばらばらという形では、いろいろな活動をされている方の御自身のお子さんたちを参加させたり、個人的な感じで高校生については参加して下さったりです。

(中村議長)

ありがとうございました。

今、おっしゃった体験学習というものも一つの切り口というか、盛り込むべきではないかという感じはしておるのです。

あと、皆さんがおっしゃいましたけれども、やはり東京学芸大学の存在は小金井市にとってプラスの面がかなり大きいのではないかと思います。具体的に申し上げますと、小山田さんがいらっしゃる子ども未来研究所の活動は素晴らしいものがある。どういう活動をされているか皆さん御存じだと思いますけれども、例えば三市連携のいろいろな講座を持たれて、市報などにもよく出ていますね。そういう素晴らしい活動をされているものもあります。科学の祭典においては、その会場であるだけでなしに、実行運営委員長が学長先生であるということ。そういうこともありますし、実は、私の個人的なことなのですが、私の娘と息子がお世話になっている活動がありまして、学芸大学の学生さんがボランティアで子どもたちを教えている活動があって、むぎのことか、かぜのことという活動がありまして、子供会の活動をボランティアの学芸大の現役の学生さんが子供の面倒を見てくださる。私の子供たちにとっては非常にプラスになったのではないかと。そういった地道な活動もされていて、閉じることなく、それが地域に還元されている。東京学芸大学の先生方もいろいろな形で、例えば小金井のいろいろな審議会、もちろんこちらの社会教育委員もそうですし、公運審であったり、あるいは図書館協議会の学識経験者として入っていただいて、いろいろな貴重な提言をいただいているということで、私は東京学芸大学の存在というのはいっと、第2次ではそんなに触れられていなかったような気がするのですけれども、その辺を盛り込んでいくことによって小金井らしさを打ち出せるのではないかと思います。

つけ加えてですけれども、基本方針案の中で一つあるのですが、今、御案内のとおり、小金井の貫井北町センターがオープンして、NPOに運営委託されている形で、公民館部分もそうですし、図書館部分もそうですし、官製NPOということですが、かなり活発に活動している。そのあたりも盛り込んでもいいのではないかと。その一例として、例えば図書館部門においてはかなり活発な活動を展開しているということで、私が提唱しているビブリオバトルです。ビブリオバトルについてはもう定着化してしまっていて、図書館の年間行事の中に組み込まれている。大体3、4カ月に一遍の開催です。それによって貸出にも影響を与えているのではないかと。例えば貫井北町センターの図書館に入ってすぐのところ、カウンターの横にお薦めの本のコーナーがあって、ビブリオバトルが終わったら、ビブリオバトルで取り上げられたものが陳列される。その貸出状況を見てみると、陳列されたらすぐ貸出がふえてという意味で、非常に効果が上がっている。それのみならず、例えばビブリオバトルにおいては、私と田中館長と学校にお伺いして、学校のほうで導入していただけない

かということでお願いしたところ、前原小学校で早速実行していただいているという事例も聞いています。そういった、図書に対する読書活動の普及というものもうたい込んでいく必要があるのではないかと。また、貫井北町センターの存在。そのあたりも小金井らしさというところではないかと。

もうちょっと申し上げますと、北町センターの図書館部門では、読書会というものも定例的に始まっていますし、前に申しましたけれども、新春かるた大会とか、非常にユニークなイベントを企画実行されている。職員の方のモチベーションが高いのでしょうね。新たなことに積極的に取り組んでおられる姿勢が見えますので、そういったことも何か盛り込むことができたらという思いが強くなります。

(石田委員)

図書館のことで関連していいですか。

図書館協議会委員の中で図書館の充実、本館の充実、建てかえを目指したいという意見も出まして、12月の答申にも盛り込んだのですが、図書館をもっと充実させようということと同時に、本館を建てかえて、完全な図書室をつくりたいということも盛り込んでいかなければ予算はとれないということで、盛り込んでいこう。同時に、小金井市は学校図書に対しては結構な予算を使っているということで、学校図書の活用が市民にできないかという意見も図書館協議会委員の中で出ているのです。図書館協議会委員は、二中の原先生が来てくださってしまして、できないことはないかもしれないけれども、一般市民を学校に入れるということの壁は難しいということがありますので、そういう意見が出たら古家先生にも応援していただきたいと思います。図書館評議員の中でもビブリオバトルをすごくやって、子どもの発言力と発表することになれるということ結構推進していきたいという意見が出ています。

先ほど古家委員の中から出た小平市がFC東京を活用している。ソロプチミストがFC東京の株を買った原因も、小平市で活用しているのに、小金井市の生徒ができない。子供たちができないというのが原因の一つにありましたので、やはり小金井市で2株持っていて、ソロプチミストが1株持っていて、3株あるので、3株の力は結構大きいのです。ですから、前回も申し上げましたが、サッカー教室の子供たちの活用、原嶋委員もいらっしゃいますので、もっと選手の派遣を強く要請できると思うのです。スポーツ協会のほうでもその株を無駄にしないで活用してください。市からの要請でもっとできると思います。

(中村議長)

今、おっしゃったFC東京は、FC東京の御好意で市内の子どもたちは無料で試合を観戦させていただいている。そういう活動もされていますし、あと、FC東京においてはJリーガーが皆さんも御案内のとおり、成人式の際にビデオメッセージとかという形で参画していただいているものもありまして、結構、FC東京とのかかわり

はありますね。

(石田委員)

今のところ表面に出ているのは、科学の祭典でF C東京のコーナーを持って来ていますので、そのくらい。最初のころは、10年前はもっと各学校に行ってサッカー教室をしていたのです。それは校長先生の協力でその時間をつくっていただいてやっていたので、学校側の協力があればサッカーの選手を派遣することができると思います。

(古家委員)

小平は毎年やっていましたね。

(石田委員)

そうなのです。それと同じような状況を10年前は小金井市も、ソロプチミストの株をつくりましたので。

(古家委員)

あれは別に小平だからやっているということではないのですね。小金井でもうまく連携をとれば。

(石田委員)

株を持っていますと申請する優先権があるのです。そうすると、そういう部署がF C東京にありまして、要請されると派遣するという義務が出てくるのです。ですから、学校側で株主のあれで要請するとできるので、小金井市も持っていますので、学校側から小金井市の株を使って要請したいということと実現可能なのです。

(古家委員)

何度かお話をしたことがありますけれども、F C東京の社長さんが地域貢献とか、学校支援に非常に意識が高い方だと思うのです。

(石田委員)

そういう担当部署があるのです。余談でございますが。

(中村議長)

ほかに各委員から御意見ございませんか。

(清水委員)

では、1つ質問なのですけれども、私が読んでいて気になったのは、小金井市地域教育会議というものが第2次に提言されているのですが、それがどうなっているのか私は一切知らないのですが、どうなのでしょう。

(中村議長)

事務局、いかがですか。

(石原生涯学習課長)

何ページですか。

(清水委員)

9ページの4番、2章の3節です。

(中村議長)

創設の提案ですね。できているのかどうか。

(清水委員)

提言とまで書く以上、結構議論してここに出たのでしょうか。その後、現状どうなっているのか。

(中村議長)

だから、支援制度についてもそういう形になりかねないなど。継続性がなく、ただそのときの思いつきというと非常に語弊があるのですけれども、そういう形でぽっと出てくるのは余り好ましいことではないのではないかと。ある程度具体化して、評価して、だめだったら、それはそれで評価して、だめでしたと。そうしていかないといつまでも育たないですね。

(中村議長)

石原課長、実態としてはないですね。

(石原生涯学習課長)

24年度発足というので、私が26年度に来たときには、特にこれになっているようなものは引き継ぎをしておりませんし、それにかかわる事務を1年間行ってごさいません。

(清水委員)

そうですか。もう一つ気になったのは、工程表が2ページに出ているのです。2ページの工程表を見ると、平成25年度で1回区切りをつけるはずが、延びているのは何かこれはまた。

(石原生涯学習課長)

これは平成28年度から第4次基本構想の後期基本計画という市の大きな計画が始まるので、28年度から後期基本計画と同じ計画年度で計画が始まるように2年間、延伸をさせてくださいという形で書いてあるものです。

(清水委員)

わかりました。

(中村議長)

今、清水委員から御指摘があったように、計画に盛り込むのは大事なことなのですが、実施されないと何の意味もないことですね。小金井市地域教育会議ということ提言したとしても、実際それが実現されなければ絵にかいたもちに終わりかねないということがありますので、そのあたりは十分、つくったはいいが、実施されない、そうならないように、ロードマップというのですか、計画というからにはそういうもの

をこういうことにおいてはつくるべきではないかと思えます。

(倉持委員)

今、おっしゃったこの提言が年限まで区切られてこのように書いてあるのに、事務局のほうでわからないというのは余りにも無責任というか、社会教育委員の会議をどう位置づけているのかということに対して非常に疑問を感じますので、お持ち帰りいただいて、実現できなかつたら、できなかつた理由なり、あるいは結局、第2次計画をどう評価するかということの第3次に対する、これが実現しないのだったらそれがどういう形で変化するなり、今後も全くこれについて触らないのだったら、どうしてそれができないのかということ、載せるか載せないかは別としても、きちんと評価しないと、引き継いでいままでは終わらない。ここまで明示されていて、会議のほうでも議論をして提言している。諮問があって提言しているのか、それはわかりませんが、きちんとそこは御回答いただいたほうがいいのではないかと思います。

(中村議長)

そうですね。石原課長、次回の会議までにそれをお願いできますか。

(石原生涯学習課長)

次回までに調査が終わるかわかりませんが、経過程度の報告はさせていただきます。

(中村議長)

いずれにしろ、どういう経緯で実際これが実現されていないというか、具体化されていないかは、倉持委員がおっしゃるように、第2次の評価にかかわるものだと思いますので、そこはきっちりしておいたほうがいいと思います。それとあわせて、例の今回出す出さないについての。

(石原生涯学習課長)

各課の進捗状況調査についてをきょうお出しするお約束だったのですが、集計のほうに間に合っていないので、次回にお出ししたいと思います。

(中村議長)

進捗調査というのは、矢印になっている部分ですか。

(石原生涯学習課長)

ここで各課の事業が書かれているものについて、直近はどのような状況になっているかというものを示すものです。

(中村議長)

自己評価ですか。

(石原生涯学習課長)

そうですね。

(中村議長)

それは次回にお願いできる。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

あわせて、次回にできるかどうかわからないけれども、いずれにせよ、回答としてさっき倉持委員から御指摘の小金井市地域教育会議がなぜ実現されなかったのか。実態が伴っていなかったところを経緯としてお手数ですがお調べいただけますか。

(古家委員)

今の小金井市地域教育会議の件ですけれども、私は当然ながら知らないのですが、今、ここにいらっしゃる方は誰も知らなかったわけですね。

(中村議長)

そうですね。大分前の話ですね。

(古家委員)

これはさっき出てきた生涯学習支援センターのことに非常に関係してくるだろうと思うのですけれども、多分、いろいろなこういう会議でこういうものをつくったほうがいいという意見としてまとめられるケースは多々あると思うのです。ただ、皆さん方もお感じになっていると思うのですが、ひょっとしたら、ここに今、いらっしゃる方でも小金井市が主催するいろいろな諮問機関とか、何とか委員会、推進協議会とかというものに複数所属されている方はたくさんいらっしゃるだろうと思うのですが、私たち例えば校長がかかわるだけでも多分、10、20あると思うのです。そういう会議の中でいろいろな方たちで検討されると思うのですけれども、どうしても抽象的にならざるを得ない部分が結構あって、私が今、小金井市地域教育会議ということをやったときに、どうしてもできていないのだろう話になったときに、これはできなくて当然だろうなという気が正直したのです。

なぜそう思ったかということ、小金井市地域教育会議をつくると思ったら、ここに参加するメンバーは一体どういう人なのだろうとまず、具体的にイメージしないと無理だと思うのです。この別紙で今回プリントしてある中に全部で95の団体名が書いてあるのですけれども、まさか95の団体の代表が全部、一堂に会して会議などということはあり得ないだろうと思います。そうすると、どういう人たちがこの会議メンバーになってとなると、ひょっとしたら、こことほぼイコールに近いかもしれないというイメージを私は受けるのです。そうすると、二度手間になる可能性があるし、絵にかいたもちになった可能性は非常に高いという気がするのです。経緯を調べていく中で、今後のことも含めて、決して会議をふやせばいいということではないし、必要なもので効果的なものという考え方は持っていくべきなのだろうなど。そのためには事務局の中の交通整理とか、引き継ぎがすごく大事になってくると思うのです。そこに今回ちょうど出てきているものが生涯学習支援センター構想というものがたまたま具

体的に出てきているのですが、言葉がひとり歩きしたけれども、実際には、先ほどもちょっと言いましたように、箱物をつくるような予算的な余裕など絶対ないだろうし、生涯学習課と別にそれができたとしたら、今度はその連携が難しいだろうしみたいなことも含めながら進めていく必要があるという意味で小金井市地域教育会議の経緯みたいなものは、そういう視点も含めて調べていただくとありがたいかなという気はしています。

済みません、余計なことを。

(中村議長)

お願いします。

(原嶋副議長)

水を差すようで申しわけないのですけれども、これをランディングするのは8回予定されています。最終的にどういう形でトータライズというか、皆さんとてもいい話をされるのだけれども、それをどうまとめていくのか。それは、コンサルと私たちの関係ですね。私たちが例えばこのぐらいのものでいいのだけれども、全て記述していくのか、あるいは誰かが書いてくださるのか。これだと6回、7回の会議ではなかなかまとまっていけないのではないかな。皆さんとてもいい話をするのだけれども、これを誰がどうまとめていくのか。もうそろそろロードマップと議長さんがおっしゃったけれども、その辺を考えていかないと、話し合いの中でこのことは決め事としていかないと、何回やっても誰がやるのかははっきりしないといけないのかなと。こういうものは最終的には事務局がやるのかなというものと、あるいは我々も執筆活動にかかわっていくのか。着地点がだんだん迫っていく中でどう考えていらっしゃるのか。

(石原生涯学習課長)

事務局が書くにしても、きょうは基本目標みたいなお話をいただいて、皆さんそれぞれ御意見が少し重なっている部分もあったり、あるいは少数の意見でしかないけれども、目標として取り入れるべきなのかという御意見をいろいろ出させていただきました。基本方針みたいな大綱、この4つを柱にしてやっていこうというところは委員の皆様を決めていただかないと、その後、我々が幾ら書いても無駄な執筆になっていくだけですので、ぜひ柱を委員の皆様にお決めいただきたい。

(石田委員)

それと同時に、2月に私たちが幾らいろいろなことを言っても、教育基本長期計画委員会ですか、教育基本方針と間違ったことを言ったら何にもならない。長期計画委員会に石原課長と竹内さんと公民館長さんが分科会に出ていらっしゃるということで、それが開かれたら順次報告しますというお話があったと思うのですが、それはまだ1回も開かれていないのでしょうか。

(石原生涯学習課長)

私たちが出るのは、26年度に出たもので一旦終わっております。その中では新しく、第4次基本構想はあと5年間、計画期間があるのです。その後期部分だけを決めるので、前期からの変更点をどうしようかという議論はいたしました。それについてオリンピックを入れるかとか、子ども・若者計画を入れるかとか、そういったお話を前に御紹介させていただきましたが、その議論の経過を長期総合計画審議会に上げているところで我々課長職の関与は一回、あなた方が関与する議題が出たときにお呼びしますので、それまでお待ちくださいという形で今は審議が緒についているところです。

あと、前に中村議長にまとめていただいた、前回の小委員会の話でも出たのですが、教育の分野については、今回、生涯学習支援センターをつくるという大きな財政的なものがかかるものを柱にすること以外の場合のソフト部分については、後期基本計画は市長のほうでつくるものですので、教育について細かな部分とか、方針についてこの計画の中では、教育のことは教育委員会というスタンスがありますので、ソフト的な考え方の部分は我々のほうで出していったら、これと大きく齟齬が出るものではないと思っています。

(古家委員)

率直な意見で、初めてきて、何でもかんでも言いたいことを言っているような感じなのですけれども、私は、今日の話し合いを受けながら、最初に自分のイメージとして考えていたのは、先ほども課長のほうからお話があったように、平成28年度から第3次がスタートみたいなイメージなので、26年度と27年度で検討してということを経験的に考えると、27年度中、ひょっとしたら12月いっぱいなのか、2月いっぱいぐらいなのかかわからないけれども、これのほぼ原案みたいなものができ上がって、来年の4月ぐらいにはこれが新しく第3次計画として作り上げられるわけですね。

(石原生涯学習課長)

そのとおりです。

(古家委員)

そう理解していいのですね。これは、一番後ろにも書いてあるように、発行元は生涯学習課編集となっていますので、それは意識して進められているわけですね。それがイメージとしては、さっきからあるように、もう少しこれが薄くてわかりやすいものみたいなこともあると思うので、そういうものも含めながら、多分、今年度の10月か11月ぐらいにはほぼその原案、第一稿みたいなものができ上がったものを今度は具体的に見始める時期に入ってくるのだらうと思うのですが、それでいいのですね。

(石原生涯学習課長)

はい。

(古家委員)

そうすると、多分、8月、9月ぐらいまでにこれに盛り込む内容、文章は事務局で考えていただくと思うのですけれども、少なくとも項目立てぐらいは早目に取り組んでいかなければいけないと思うのです。そういったことも含めて、私は、本当に初めてきて申しわけないのですが、前回の話し合いの骨子とか、今までの話し合いの主な内容をまとめたものみたいなものがこれですね。これは一つのスケジュール表ですね。同時に、今まで話し合った内容の骨子みたいなものは、前回までの積み重ねはこれです。だから、今日はここからスタートしてくださいみたいなものはこの委員会が行われるたびに事務局から提示されたほうがいいのかなという気はするのです。

(石原生涯学習課長)

古家委員には今回初めての参加で申しわけなかったのですけれども、前回の小委員会で第2次生涯学習推進計画の各社会教育に関連する団体からの評価については取りまとめを終了いたしまして、今回の会議から具体的に第3次の柱をどうするというのを議論するという整理にしておりました。

(中村議長)

それと、前に私のほうから再三お願いしたけれども、やはり議事録は次回のときまでに。別に詳細でなくていいので、ポイントだけで結構ですから、事務局のほうで必ずそれをおつくりいただけないですか。前にもお願いしたと思うのですが。それが無いと同じことを何回も話し合ってしまうような時間のロスがあると思うのです。我々は待たないで、9月初旬には社会教育委員が入れかわりますね。それまでにある程度道筋をつけないと、また一からになったら本当に何もできないことも想定されるわけじゃないですか。ですから、次回のときまでには要点だけで、ポイントだけで結構ですから、前回こういうことを話し合われたということで。

(石原生涯学習課長)

スピード重視で、業者が出した誤字脱字がかなりありますけれども、流れはそれでわかるでしょうから、全く校正していないものでも、記憶を呼び戻すには十分役立つものがすぐにできますので、それをすぐに配信するようにさせていただきます。

(原嶋副議長)

そうですね。必ず前回の会議の分は、前のときにやったものは事前に、例えば今度5月にあるとしたら、5月の会議の数日前、2、3日ぐらいまでには皆さんに配信していただかないと、やはり何を論議されたか忘れてしまいますね。人間すぐに忘れる。私などは特にそうなのですが。それはやはり必要だと思います。完璧な形でなくて結構です。アウトラインで結構です。それはぜひ事務局をお願いしたいです。

(清水委員)

先ほど言ったごみ審議会も長期計画マスタープランをつくったのです。本文で80

ページぐらいあります。当初は40、50ページの案を事務局が出してきて、それに対して審議委員がいろいろ注文、追加、内容の表現まで全部、一字一句見て、それで最終的に80ページの審議の提言書にした。パブリックコメントを1月にやりましたから、約半年間でまとめ上げたのです。月に1回ないし2回のペースでやりました。

そういうことも含めて考えると、私は、骨格は事務局と議長、副議長でつくっていただいて、たたき台を早くつくっていただきたい。今までいろいろな議論をしていて、感觸的には議長、副議長は把握されていると思うので、取捨選択は独断と偏見でやってしまって構わないですから。

さっきの長期計画とのすり合わせもした上での案をまずは出していただく。それに対してこういう追加がいいのではないか。ここはこう訂正しませんかとまとめないと多分無理ですね。9月までにまとめるのですか。

(原嶋副議長)

9月は当然無理だと思っているのです。ですから、骨格、大枠の基本方針と章立てぐらい。章立てをつくれればあとは章立てに基づいて具体的な事例を挙げていくので、少なくとも、その章立てぐらいはやっていかないといけないと思います。そうでないと、次の社会教育委員の方が大変だと思います。わけがわからない中で、すぐにつくれるような代物ではないと思うのです。

それと、御参考までに、今、長期計画審議委員会がスタートしていますけれども、その中で起草委員会というものがあるのです。その起草委員会がどこまでやっているかというところがあるのですが、清水委員がおっしゃったように、ある程度、起草委員会もどきのものをつくって、たたき台は文章にしないと議論は進まないと思います。

(清水委員)

以前の分で見ると、16ページ分なのですね。これはみんなデータのものですから、流れ作業ではないけれども、16ページ分の半分は事務局でつくれると思うので。

(倉持委員)

おっしゃるとおりだと思います。こうやって意見を言っても全然積み重なっていないので、結局、きちんとそれを踏まえたたたき台がないとだめだと。それは大体、事務局が議長、副議長さんたちと一緒にやって、資料として出してきてということが多いかなと思います。

(中村議長)

事務局で時間をつくってやりますか。こういう場ではできませんから、事務仕事になります。よろしいですか。後で三者でスケジュール調整をして、皆さんにたたき台的なもので、文章の形でお示しするという事と。

(原嶋副議長)

私的な考えですがけれども、倉持委員は骨格をつくる、こういうことが一番よくおわ

かりですので、最初に加わっていただいて骨格を示唆していただくと重複しないで、まとめていただく最短距離にならないでしょうか。ひとりの話です。勝手に言っておりますが。

(倉持委員)

きょうは自分のメモがあるので、骨組みにはならないと思いますけれども、きょうの分のメモで、少しこういう柱立ての意見が出ているという資料ぐらいならつくれますが、そこから先、何度が打ち合わせをしてというとなかなか時間がとれないので、それでよろしければ、きょうの議論については少し固めたものを議長に事務局を通してお渡しして。

(中村議長)

では、それでお願いしてもよろしいですか。

(倉持委員)

それはでは、頑張ります。

(中村議長)

倉持委員のほうから事務局に送っていただいて、それをもとに事務局と原嶋副議長と私でつくるということにさせていただきますが、皆さん、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

では、その三者でまたそれは調整させていただきます。

では、協議事項の1番はこれで終了させていただきます。

(2) 平成27年度スポーツ関係団体への補助金交付について

(中村議長)

協議事項の(2)平成27年度スポーツ関係団体への補助金交付について、事務局のほうからお願いします。

(石原生涯学習課長)

スポーツ関係団体の補助金の交付につきましては、社会教育法の第13条で社会教育関係団体補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の意見を聴くと定められているところでございます。小金井市体育協会と黄金井倶楽部につきましては、社会教育関係団体ではございませんが、社会教育に関連する団体であること、また、他の社会教育関係団体の補助金に比べ大きな額の支出であることから、社会教育委員の会議のほうから御意見を伺った上で交付していきたいと考えているところでございます。

説明は以上です。

(中村議長)

今の御説明にありましたが、資料をごらんください。「1 公益財団法人小金井市体育協会」についてと「2 NPO法人黄金井倶楽部」についての補助金交付額についての一覧表です。27年度はこうしようという案ということですか。

(石原生涯学習課長)

予算上、このように議会を御議決をいただいておりますので、予算額上限どおりに交付しようと考えているところでございます。予算の内容とすれば、例年並みということでございます。

(中村議長)

ただ、小金井市体育協会の一覧表を見ますと、27年度と26年度の比較において2万4,542円が減っているのは人件費補助のところですか。

(石原生涯学習課長)

これはそれぞれ補助の項目が決まっておりますので、その団体さんのほうで支出する項目などが減になると、その減った額を超えて補助金で余剰金が出るような形での補助はできませんので、そういったことから、2万4,542円については体協さんのほうの予算組みの中で補助ができ切れないものでこういった内容になってございます。

(中村議長)

この2万4,542円というのは。

(石原生涯学習課長)

これは、体協さんも何人も職員を抱えていらっしゃいますので、それぞれどの人にどういった賃金の補助をする。正職員でございますので、共済費などの支出も必要となりまして、また、交通費なども人件費関係としてかかってございます。体協さんで雇用されている職員さんの実態にあわせて補助額として積算したものでございます。

(中村議長)

ありがとうございます。

各委員から補助金交付額について御意見ございますか。

お願いします。

(清水委員)

質問なのですけれども、よく補助金は国とか都、市で分担しているケースが多いのですが、これはあくまで市の持ち分で、国だとは都はまた別途あるよということですか。

(石原生涯学習課長)

さようでございます。それぞれ体協さんや黄金井倶楽部さんも東京都からの補助や、

黄金井倶楽部さんは国からの補助なども、その団体が行う事業計画内で補助金が立てられるものについてはそれぞれ団体さんの自己努力という形で補助金を申請して、そういった歳入もほかに見込まれていると聞いております。

(清水委員)

あくまで純粹に小金井市が持った分と。わかりました。

(中村議長)

ほかに各委員から御意見ございませんか。

なければこのまま承認ということで、皆さん、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

ありがとうございます。

(3) 社会教育関係団体の登録について

(中村議長)

続きまして、(3)の項目で、社会教育関係団体の登録について、事務局のほうから説明をお願いします。

(石原生涯学習課長)

資料のほうは、まず、黒塗りのページがある社会教育関係団体の登録の一覧と、個別に平和・民主・革新の日本をめざす小金井の会の資料を添付してございます。

今回、お諮りしたいところは、社会教育関係団体で市の要綱に照らして不承認とする基準に該当すると思われる団体からの登録申請があったことによります。

背景から説明させていただきます。

まず、社会教育関係団体の定義から述べさせていただきます。

社会教育法において、社会教育に関する事業を行うことを主目的とする団体と定義されているところでございまして、小金井市におきましては、1度登録をすると3年度間の登録を有効としてございまして、平成27年度は全ての登録団体の更新年度となっております。もちろん新規の登録も同時に受け付けてございます。社会教育関係団体に登録いたしますと、国や教育委員会から登録団体の求めに応じて社会教育事業に必要な援助。具体的には補助金でございしますが、これは限度があるところでございますが、そういった援助が行われます。

今回、昨年度まで登録されていた団体でございます平和・民主・革新の日本をめざす小金井の会から登録の申請があったものにつきまして、申請に必要な資料といたしまして事業計画書の添付を求めているところでございますが、その中に「記念講演『安

倍暴走政権反対の国民的共同の発展を』というものが4月12日にもう既に行われたこととなりますが、そういった計画がございまして、市の要綱に照らしまして、特定の政党や宗教を支持し、またはこれに反対する行為を行わないことというものに抵触すると考えているところでございます。

社会教育委員の皆様には、要綱に従い、判定の困難なものについて社会教育委員の会議の意見を聴いて決定するとされているところでございまして、今回、意見を聴くものでございます。既に委員の方からは政党活動と認められるという御意見もいただいているところでございますが、他に御意見があればお聴きしたいと考えてございます。

以上です。

(中村議長)

意見を事務局として聞かれるということですか。

ほかに今の意見について御異議のある方、いらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。

(4) その他

(中村議長)

では、続いて、事務局、協議事項のその他はございますか。

(石原生涯学習課長)

ございません。

2 報告事項

(1) 平成27年度予算概要について

(中村議長)

では、なければ報告事項に移ります。

平成27年度予算概要について、事務局のほうからお願いします。

(石原生涯学習課長)

時間もございませんので、資料の配付をさせていただきました。こちらの資料に基づいて既に教育委員会でも御報告させていただいたところでございますので、下段のほうに生涯学習部の項目がございまして、生涯学習部の新規の事業やレベルアップの事業ということで、こういった事業が行われるということで御参考までにお知らせさせていただきます。

以上です。

(中村議長)

私が今、拝見した中で思ったのですけれども、真ん中ほどの事業費のところは数値が全部書かれていますね。これは27年度の予算額ですね。この手の資料を出していただくときは前年単位が必要だと思うのです。前年に比べてプラスであったか、マイナスであったか。

(石原生涯学習課長)

新規のものが多いので、前年になかったものを載せているとか、工事でもやる内容が違うので、前年は余り予算がなかったり、そういったもので大きく変わっているものを、新規とかを中心に載せていると思っていただければ。

(中村議長)

そういう理解でよろしいですか。わかりました。

今、配られた主な事業について、特に生涯学習部が関連するところで皆さんの御意見をお聴きすればいいですか。

(石原生涯学習課長)

報告事項ですので。

(中村議長)

こうなったということですね。では、これは資料として後でまたお目通しいただければと思います。

(2) 三者懇談会について (平成27年5月21日午後2時から801会議室)

(中村議長)

続きまして、報告事項(2)三者懇談会についてということで、平成27年5月21日午後2時から801会議室ということです。

(石原生涯学習課長)

こちらは、三者懇談会は貴重な図書館協議会、公民館運営審議会との交流の場ですので、第3次生涯学習推進計画についての御意見も各団体からいただきたいと考えていたところでございますけれども、図書館協議会のほうで講演を主目的として懇談会の中で行いたいということでございますので、第3次生涯学習推進計画につきましては、15分、20分程度でこちらのほうからぜひ知っておいていただきたいことを申し述べて、特に御意見があったものについてだけお聞きする形でやってまいりたいと思っております。

(中村議長)

今、石原課長からお話がありましたけれども、講演される先生は、図書館協議会の田中会長がお話される。

タイトルを聞いておられますか。

(上石館長)

図書館のほうが今回、事務局なので、図書館協議会の会長の田中先生が御自分でということで、もう御存じだと思うのですが、ソフトな感じの先生なのですが、タイトルは「生涯元気でいられる呼吸法について」ということで、御自分が学生さん向けでやっているような授業内容を三者の方々にもリラックスしていただいて、呼吸法を学んでいただいて、生涯元気に過ごしましょうという、懇談会で三者の委員さんと交流できるような形で易しい講演をして、その後、自由な感じで意見交換をしたいということが趣旨のようです。

(中村議長)

一応、それでもう御準備はされているということですね。

(上石館長)

そうですね。かた苦しくならないような形でやりたいとはおっしゃっていました。

(中村議長)

今のテーマについてももう決まってはいると思うのですが、御意見はございませんか。よろしいですか。

(原嶋副議長)

田中さんの気功法と、その次に、社会教育とか、図書館、公民館と、気功をみんなでやっていて、次にどう展開するのかちょっと読めない。

(中村議長)

ほかに御意見がなければ、三者懇談会については、以上の5月21日午後2時から、万障お繰り合わせの上、御参加をお願いします。

(3) その他

(中村議長)

続いて、報告事項(3)その他はございますか。

(石原生涯学習課長)

次回の日程でございます。5月15日、本会議として9時30分から同じ場所、801会議室で開催いたします。うまくいけば生涯学習推進計画の契約のほうができている、業者さんのほうも同席される可能性もあるかなというところです。

(中村議長)

結局、どこに決まったのですか。

(石原生涯学習課長)

まだ募集中です。

(中村議長)

まだそこですか。その契約は生涯学習部ですか。それとも市長部局ですか。

(石原生涯学習課長)

これは金額で市長部局が契約する案件となっております。

(中村議長)

現状、何社ぐらいから応募があるのですか。

(石原生涯学習課長)

4月22日に入札予定と聞いてございますので、それまでに参加したいという方々が集まってこられるのかなと思います。

一発で契約できれば、次回の会議にはもちろん参集できるのでしょうけれども、不調とか、そういったこともあり得ない話ではないので、確定的なところは契約が終わってみたいと申し上げられないところです。

(中村議長)

どこまでコンサルが踏み込んでお仕事をやっていただけるか。その辺の切り分けですね。我々の委員会とコンサルが、何をどう分担するか。その辺の切り分けをきっちりしていただければというお願いです。もちろんお考えだと思いますが。

ほかに皆さんから御意見がなければもう大分時間もたちましたので、この辺で今日は終了させていただきます。よろしいでしょうか。

お疲れさまでした。ありがとうございました。